
理科分科会

I 研究のあゆみ

- 4月19日（水） 2023年度名教組教研オリエンテーション 【教育館】
(2023年度名教組教育研究活動の進め方)
第1回理科分科会（同時開催）
(研究の進め方・研究テーマの検討)
- 5月 8日（月） 第2回理科分科会 【野跡小】
(第1次実践の計画・検討)
- 6月は全体での会は開かなかったものの、個別に検討
- 7月下旬 第3回理科分科会 【グループでTeams】
(第1次実践の振り返り、第2次実践の計画・検討、レポートの検討)
- 8月は全体での会は開かなかったものの、個別に検討
- 9月 1日（金） 第4回理科分科会 【野跡小】
(当日に向けてリハーサル)
- 9月16日（土） 第73回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会 【ウインクあいち】

II 今年度の実践について

理科分科会では、小学校から11本、中学校から9本の計20本のレポートが提出された。問題解決の力を育てるために、話し合い活動やワークシートの工夫を取り入れた実践、理科の学習に意欲的に取り組むことができるように、観察や実験の意欲付けや気付き・問いの共有化に焦点をあてた実践など多岐に渡った。

特に、観察、実験の場において効果的に使用した例やワークシートを工夫し児童・生徒の考えを視覚化し比較、検討するICTを活用した実践は参考となる。また、実験計画を考えたり、予想や仮説を立てたり、考察したりするための話し合いの工夫も見られた。自分の考えを明確に示す話し合いの工夫や、自分の考えを記述するためのワークシートの工夫はこれからの授業を考えていく上でも参考となる。

III 今後に残された課題

- 児童・生徒にとって「わかる授業」とは何か改めて考え、日々の授業の質の向上を常にめざしていくこと。
- 学びの質の向上をめざし、児童一人ひとりの意欲を大切に、主体的に学習に取り組む授業の在り方について継続して検討していくこと。
- 児童・生徒が自然に親しむことができるよう、学校や地域の環境を十分把握し、直接体験を軸に学習を進めていくことができるような学びをめざしていくこと。
- ICTの活用など学習における新たなツールを効果的に用い、協働を図りながらより豊かな学習に結び付けていくこと。
- コロナ禍における理科授業の在り方や近年取り上げられている「プログラミング的思考力」、「カリキュラムマネジメント」、「SDGsの視点」を踏まえ、新たな理科授業の創造に向けて検討していくこと。